

休眠預金活用事業 2025年度：通常枠

**誰ひとり取りこぼさない、IT活用も含めた日本語教育・支援体制整備事業
ー社会的所属のない海外ルーツ者を対象とした学びとつながりの場づくりー**

資金分配団体：NPO法人青少年自立援助センター

【審査過程】

2026年5月18日	公募要領公開（WEBサイト等）
2026年5月22日	公募説明会の開催 ※説明会終了後、オンラインによる個別相談会を複数回実施
2026年6月17日	公募締め切り
2026年6月下旬	事務局による書類審査
2026年7月初旬～中旬	事務局による面談実施・現地訪問 外部審査委員3名による申請書類/面談・訪問内容に基づく審査
2026年7月22日	外部審査委員3名による内定団体の選定（最終審査会）
2026年7月24日	結果通知

【採択団体および事業概要等の詳細】

審査の結果、**5団体**を助成対象（実行団体）として採択いたしました。

各団体の事業名、事業概要、助成金額等は以下のとおりです。

団体名称	一般社団法人福岡国際市民協会
対象地域	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
申請事業名	九州地球市民学校 社会的所属のない九州地域の海外ルーツの保護者・子ども・若者への、日本語教育・進学・キャリア支援
申請事業の内容	FIRAは海外ルーツの保護者が主体となり設立した団体であり、日本語指導や学習支援、進路サポート等を通じて【3年・延べ8,168名】を支援してきた。来日当初に未就園・未就学だった子どもが園や学校につながる一方、家族滞在等で来日した保護者及び学齢超過の子ども若者は、日本語教育・進学・就労のいずれにもつながりにくく、孤立しやすい。FIRAは当事者コミュニティと地域住民・学校・自治体とのつながりを強みとしており、本事業を通じて、対象者へアウトリーチを強化する。本事業では社会的所属のない海外ルーツの保護者と子ども若者を「日本語ができない人」ではなく、家族生活・子どもの教育・地域の経済を支えるキーパーソンでありながら制度的所属を持ちにくい生活者と捉え直し、対象者が本来の力を発揮するための支援・環境づくりを実施する。具体的には(1)社会的所属のない保護者・子ども若者を対象とした日中の日本語クラス、(2)キャリア教育・就労支援プログ

	ラム、(3)九州の支援者ネットワーク構築を、ICTを活用したオンラインおよび対面で行う。従来の対面中心の支援を、有資格日本語教師と多文化コーディネーターの配置、オンライン併用により、自宅から出にくい母親や社会資源が乏しい地域の未支援層へ届け、支援の質と量を拡大する。
選定理由	審査会では、保護者、とりわけ女性への支援の視点を含めている点や、支援の空白地域が多い九州全域でのネットワーク拡大への取り組みが評価されました。 特に以下について力を入れていただくことで、より支援の拡大に寄与することを期待しての採択となりました。 ・継続的な事業展開をしていくための組織の基盤整備をしていただく ・鹿児島県・宮崎県といった九州地域における支援の空白状況がより厳しい地域への優先的な取り組みを実施していただく これまでに築いてきたネットワークや既にあるリソースを十分に活用して、支援を拡大していくことが望まれます。
助成予定金額	26,200,000 円
助成総額の内訳	直接事業費：24,940,000 円
	管理的経費：660,000 円
	評価関連経費：600,000 円

団体名称	特定非営利活動法人トルシーダ (コンソーシアム申請／構成団体：特定非営利活動法人ピースリンクジャパン)
対象地域	茨城県、愛知県
申請事業名	支援の届きにくい若者へのICTを活用した日本語支援・進路支援事業～地域を越えて学び合い、若者の未来をひらく～
申請事業の内容	本事業は、外国ルーツの若者が言語や情報の壁を越えて進学・就労・地域参加等に関する情報へアクセスし、多様な人や社会との接点を持ちながら、自らの可能性や選択肢を広げ、進路や生き方について考える機会を得られる環境づくりを目的とする。 近年、外国ルーツの若者の中には、日本語能力の不足だけでなく、進学や就労に関する情報へのアクセス不足、相談相手の不在、地域社会とのつながりの希薄さなどにより、自らの将来を具体的に描くことが難しい状況に置かれている者が少なくない。また、支援者側においても、若者支援に必要な知識や実践経験を有する人材が不足しており、支援が地域や個人の経験に依存している現状がある。 そこで本事業では、愛知県のトルシーダと茨城県のピースリンクジャパンがコンソーシアムを組み、日本語教室、個別相談、進路相談、キャリア教育、先輩との交流、職場体験等を実施する。また、ICTを活用したハイブリッド型教室の運営により、地域を越えて若者の学習機会や相談機会を拡大する。 さらに、実践型OJTを通して支援者同士が継続的に学び合う仕組みを

	構築し、教材や実践記録、支援事例を共有・蓄積することで、外国ルーツの若者支援に関する知見の継承と支援体制の強化を図る。これにより、支援空白地域においても継続的な支援が可能となる体制づくりを目指す。
選定理由	審査会では、これまでの着実に積み上げられてきた実績と、本事業の計画が実行可能な形になっていることが評価されての採択となりました。特に、構築されてきたリソースを活かしながら、地域全体をカバーできる包括的な取り組みを考えられている点が評価されました。 また、愛知県・茨城県という既に支援が行われているエリアに注力するだけでなく、他地域や全国への波及や成果の共有・発信をしてモデル化することを期待しての採択となりました。
助成予定金額	29,000,000 円
助成総額の内訳	直接事業費：27,636,500 円
	管理的経費：163,500 円
	評価関連経費：1,200,000 円

団体名称	株式会社マキノハラボ
対象地域	静岡県
申請事業名	海外ルーツの子ども・若者の「学びと所属」をつくるハイブリッド日本語伴走支援事業
申請事業の内容	本事業は、学校・就労・地域支援につながりにくい海外ルーツの若者・生活者、および不就学・不登校等により日本語学習機会が不足している子どもを対象に、日中の学び直しと相談につながる入口を整備する事業である。対象者は、日本語力に加え、進路情報、制度理解、相談先に関する情報や地域との接点が不足し、自力で必要な支援にアクセスしにくい状況にある。そこで初回アセスメントにより、学習・生活・進路の状況を把握し、一人ひとりに応じた支援計画につなげる。支援は、オンライン伴走と対面支援を組み合わせ、月曜日・水曜日は午後のオンライン伴走と夕方の対面支援、火曜日・木曜日・金曜日は日中のオンライン伴走を中心に継続的に実施する。Webアプリは、教材提供や業務効率化にとどまらず、移動手段、時間帯、家庭環境などの制約がある対象者にも支援の入口を広げる基盤として活用する。多言語教材、学習履歴、面談記録、目標管理を整備し、支援者が常にそばにいない時間でも次の学びを確認できるようにし、学習の停滞や未着手を次回支援につなげる。対面支援では、学習定着、進路・生活相談、家族や学校・関係機関との接続を行い、地域や仲間とのつながりを通じて所属感を育む。支援記録を成果把握と改善にも活用し、支援の質と継続性を保ちながら、将来的には他県・他地域でも活用できるモデルとして全国共有を目指す。
選定理由	審査会では、海外ルーツ支援分野に株式会社が参入することの意義や、既に拠点をもち、地域に密着した日本語教育支援の経験があることが評価されました。

	特に以下について注力していただくことで、より支援の拡大につながることを期待しての採択となりました。 ・アプリ開発について、効率的な開発タイムラインの整理を行い、本事業期間中に可能な限り広範な波及に努めていただくこと ・アプリ開発を含む本事業の実施にあたり、海外ルーツ支援に関する専門性を高めるために専門家アドバイザーを入れていただくこと ・県内における繋がり作りをおこなっていただくこと これまでの経験から得られた地域内のリソースを活かしつつ、全国への波及を見据えた事業実施が期待されます。
助成予定金額	29,000,000 円
助成総額の内訳	直接事業費：24,460,000 円
	管理的経費：3,540,000 円
	評価関連経費：1,000,000 円

団体名称	特定非営利活動法人WELgee
対象地域	全国
申請事業名	難民・避難民への就労特化型日本語教育・キャリア伴走一体化事業～日本語の壁を越え、難民が「人材」として活躍できる社会へ～
申請事業の内容	本事業は、日本に在住する社会的所属のない難民・避難民を対象に、WELgeeが10年間培ってきた育成・就労伴走事業を基盤として、育成・就労伴走事業と就労特化型日本語教育を一体化した支援モデルを構築するものである。 従来の日本語教育は資格取得が中心であったが、本事業では職場で必要な日本語レベル（N3相当）や就職活動を見据えた学習を実施するとともに、結果だけでなく、日本語能力試験だけでは評価しきれない学習姿勢や成長過程、自助努力を可視化し、企業の採用判断に活用する新たな推薦モデルを構築する。 また、定期的な学習機会を通じて当事者との接点を増やし、就職活動や生活上の悩み、孤立の兆候を早期に把握するとともに、必要に応じて行政や専門機関、他団体へ適切につなぐ機能を担う。 さらに、今年より開始した企業や市民と連携したコミュニティ活動への参加を促し、日本社会とのつながりや居場所づくりを推進する。関西・東海・横浜で実施してきたアウトリーチも拡大し、オンラインを活用しながら事業期間中に250名以上との接点創出を目指す。 日本語力の向上による就労機会の拡大は、有料職業紹介事業のマッチング増加にもつながる。その収益を、特定技能をはじめとする新たな就労ルートの開拓や、就労許可のない方々への伴走支援活動の充実へ

	再投資することで、支援対象の拡大と事業の持続可能性を両立する。
選定理由	審査会では、難民支援のための日本語教育という先駆性や、全国展開への実現可能性の高さが評価されました。 本事業においては以下の点にも取り組んでいただくことで、さらなる支援の拡大が望まれます。以下について実行していただくことでより支援の拡大につながることを期待しての採択となりました。 ・支援の対象者層を、現在の想定から可能な限り広げること これまでの就労支援の知見を活かして、日本語教育の専門性を獲得していくことで、より効果的な事業実施が望まれます。
助成予定金額	29,000,000 円
助成総額の内訳	直接事業費：23,684,750 円
	管理的経費：4,041,250 円
	評価関連経費：1,274,000 円

団体名称	特定非営利活動法人多文化センターまんまるあかし
対象地域	兵庫県
申請事業名	外国にルーツを持つ子ども達への進学支援 子ども達の未来を運任せにしない体制づくり
申請事業の内容	本事業は日本で高校進学を希望する若者が、言語や制度の壁によって進学を諦めることのないよう、オンライン授業とスクーリング授業を組み合わせる継続的に支援することを目的とする。主な対象は、母国で中学校を卒業して来日した若者、また日本語力が十分ではなく、学校で孤立している中学3年生である。彼らは日本語力の不足に加え、日本の学校制度や入試の仕組みが分からず、進学を躊躇することが多い。本事業では日本語教師による日本語授業に加え、日本語教授法の知識のある講師による高校入試に必要な教科指導を行い、日本語力と基礎学力の双方を育てる。オンライン学習で継続性を確保し、スクーリングで理解の定着や個別フォローを行うことで、通学が難しい家庭にも対応できる柔軟な学習環境を提供する。また、父兄に対しては、日本の学校制度、高校の種類、入試方法、必要な費用などを説明し理解する機会を設け、外国人保護者が子どもの将来を支援できる状態を整える。さらに、本事業の最終ゴールは「高校入学」ではなく「高校卒業」とし、入学後も継続して学習面・生活面の相談に応じる伴走支援を行う。特に社会科など理解が難しい科目については、母語での説明を取り入れるなど、学習のつまづきを防ぐ。外国にルーツを持つ若者が日本で未来に希望を持ち続け、自信を持って生活できるよう、長期的で包括的な支援を提供することを目指す。
選定理由	審査会では、これまでの支援経験によるニーズを的確に把握している点や、地域性が多様な兵庫県下における連携支援、オンラインを通じてネットワーク化していくこと、高校進学のための支援などが評価されました。

	本事業実施においては以下の点に留意しながら着実に取り組みを進めていくことを期待しての採択となりました。 ・明石市にとどまらず広く兵庫県全域を対象とすること ・社会的所属を得た後の直接支援以上に、新たな所属先をなった機関等が自立的に支援できるような環境整備・中間支援的観点からの取り組みが行われること
助成予定金額	19,300,000 円
助成総額の内訳	直接事業費：16,690,000 円
	管理的経費：2,340,000 円
	評価関連経費：270,000 円